

## 事後評価結果報告書

研究課題名	マラリアのない社会の持続を目指したコミュニティ主導型統合的戦略のための分野融合研究プロジェクト
機関名	大阪公立大学
研究開発代表者名	金子 明
採択年度	令和元年度

- 研究開発は、当初の計画に沿って全研究項目を概ね完遂し、診断、治療、媒介蚊対策、行動変容の各分野で十分な成果を得た。新型コロナウイルス感染症の影響下においても現地調査と解析を継続し、上述の4つの分野を包括する実証研究を計画通りに遂行し、地域主体の持続可能なマラリア対策モデルを提示した点は特筆に値する。
- 研究開発成果としては、Olyset<sup>®</sup> Plus 天井式蚊帳（以降、天井式蚊帳）による感染率および発症率半減の実証、ヒト遺伝子多型解析など、国際的に認められる顕著な成果を挙げた。特に、天井式蚊帳を用いた対策が感染防止に寄与しうることを示し、研究開発終了後の普及に向けた準備を進めた。さらに、マラリア撲滅センターを整備し、各種介入試験のモニタリング機能を保持しつつ機器整備と技術移転を完了させたことは高く評価できる。これらの成果は学術的・社会的両面で国際的インパクトを持つものである。
- 実施体制については、ケニアと日本双方の研究者、行政、住民が連携した堅牢な協働体制を確立し、持続可能な研究開発基盤を整備した。若手研究者育成にも顕著な成果が見られた。
- 科学技術の発展と今後の研究に関しては、新規媒介蚊対策、診断装置、薬理遺伝学的解析などを融合しマラリア制圧研究を大きく前進させた。ケニア以外のアフリカ諸国における将来の蚊媒介性感染症コントロールへの本研究成果の波及効果が期待される。
- 持続的研究活動への貢献としては、現地研究機関に研究センターと実験ラボを整備し、技術移転と人材育成を実現しており、地域主導の研究活動として自立的継続が期待される。
- 今後の研究に向けては、現地の継続的運営に必要な自発的かつ持続的な資金確保に課題があり、成果の他国・他地域への展開と制度的実装に向けた戦略をさらに具体化することが重要である。